

令和 02 年度 事務事業評価書

新継区分	継続	事務事業名称	005 新しい公共交通検討事業				
担当部	110000 企画開発部		課・室	110901 政策推進課	所属長名	金城 壮	

(1) 基本情報

基本目標		005 暮らしのつながるまち(まちの基盤)		施 策		005 交通・通信ネットワークの整備	
事務事業期間		平成24年度 ～ 令和02年度		会計種別		01 一般会計	
経費の性質		5 政策的経費		実施計画対象		1:対象	
事業概要	実施方法	業務委託又は指定管理		実施根拠 (法令や条例等)		・道路運送法第4条 ・道路運送法施行規則第9条の2	
	目 的	平成27, 28年度に実施した「糸満市地域観光交通実証実験」「糸満市～那覇空港直行バス路線実証実験」及び、平成30年～令和2年度まで実施中の「糸満市地域観光交通試験運行」、令和元年度策定予定の「糸満市地域公共交通網形成計画」を踏まえ、糸満市の支線及び幹線の本格運行の運行計画を策定し、運行準備を行うことを目的とする。					
	対 象	・市民 ・観光客等の来訪者					
	活動内容	・4月～3月 生活交通確保維持改善計画策定及び本格運行準備業務（支線） ・4月～3月 本格運行準備業務（幹線） ・7月、10月、2月 地域公共交通会議開催					
	意図（成果）	運行計画を策定し、本格運行を実施することにより、市民及び来訪者の移動利便性が向上し、市の持続的発展に資する。					

(2) コスト及び成果

	単位	H31年度決算	R02年度予算	R03年度予算	R04年度予算	R05年度予算
事業費	千円	24,566	29,120	0	0	0
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
	県支出金	千円	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	24,566	29,120	0	0

この事務事業の業務量を数値化したもの・・・活動指標			この事務事業の成果を数値化したもの・・・成果指標		
活動指標名	単位	左記の活動指標とした理由	成果指標名	単位	左記の成果指標とした理由
委員会開催	回	試験運行の状況のチェック、糸満市の公共交通のあり方について話し合う場である為、継続的に開催する意義がある。	いとちゃんmini乗車数	人／時	各年度により運行時間が異なる可能性があり、時間当たりの乗車数を検証することにより需要が確認できる。
試験運行実施	月	本格運行可能かどうか検証するため、実施する意義がある。			

活動指標	指標名	単位	区分	H31年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度
委員会開催		回	計画値	3	3	0	0	0
			実績値	4	3	0	0	0
試験運行実施		月	計画値	12	12	0	0	0
			実績値	12	12	0	0	0
			計画値	0	0	0	0	0
			実績値	0	0	0	0	0

成果指標	指標名	単位	区分	H31年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度
いとちゃんmini乗車数		人／時	計画値	4	5	0	0	0
			実績値	8	7	0	0	0
			計画値	0	0	0	0	0
			実績値	0	0	0	0	0
			計画値	0	0	0	0	0
			実績値	0	0	0	0	0

妥当性	①事務事業を実施する妥当性	● 目的は明確で上位の施策に結びついている ○ 目的は上位の施策に結びついていない ○ 内部管理経費のため、上位の施策に結びつかない 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 第4次糸満市総合計画後期基本計画第5章第5節（3）③公共交通網の整備にあるとおり、公共交通網の整備、地域公共交通会議の開催が必要である。
	②行政が関与する妥当性	○ 法令及び条例によりサービスが義務付けられている ○ 国、県、市の協調によるもの ○ 民間ではできない、または民間では実施していない ● 民間に同様・類似のサービスがあるが、質や量等が不十分なため、補完するもの ○ 民間に同様・類似のサービスが存在する 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 民間により路線バスが運行されているが、市内線、市外線ともに市民・観光客の移動ニーズに対応できていない。 。行政が市民・公共交通事業者・有識者等と話し合い、糸満市の公共交通のあり方を考えていく必要がある。

必要性	③市民ニーズ	○ 市民のニーズの有無に関わらず実施する必要がある ● 市民ニーズが増加傾向にある ○ 市民ニーズが現状維持の傾向にある ○ 市民ニーズが減少傾向にある ○ 市民ニーズを把握していない 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 平成28年度実験時に比べ、いとちゃんminiの乗車数は増加傾向にあり、市民ニーズの増加が見て取れる。
	④現時点での優先性や緊急性	○ 緊急事態への対応、最重要施策など最優先して実施する必要がある ● 日常的な安全、生活を確保するために実施する必要がある ○ 公共サービスの平均的水準を確保するために実施する必要がある ○ 現時点での優先性や緊急性は低いものの、市の将来のために実施した方がよい ○ 現時点では必ずしも実施しなくてもよい 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 現時点で、市内の公共交通が交通弱者・観光客の移動ニーズに対応できていない。 将来的にも、高齢化の進展による交通弱者の増加、路線バス不採算路線の更なる減少等が見込まれ、将来的な観点からも必要。

公平性	⑤受益者負担は適切か	● 広く市民を対象としていることから適切である ○ 事務事業の対象が特定されているが、受益者には応分の負担があり適切である ○ 事務事業の対象が特定されているが、受益者には応分の負担となっていないため、見直しの余地がある ○ 受益と負担の適正化を求める事業ではない（社会福祉等を目的とする事業など） ○ 公平性の評価になじまない（内部管理業務など） 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 利用者には、応分の運賃負担をしてもらっているため、公平性は高い。
-----	------------	---

効率性	⑥事業の成果を低下させずにコスト削減を図っているかどうか	○ かなり削減できている ● ある程度削減できている ○ あまり削減できない 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 事業を促進することにより公共交通の利便性が向上し、利用者が増え運賃収入が増える、または、路線バスへの赤字補てん額が減少する。
-----	------------------------------	---

有効性	⑦成果指標の目標値(予測値)に対する達成度	● 目標を上回る ○ 目標を概ね達成している ○ 目標をやや下回る 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 ・市民の公共交通に対するニーズは今後も増加することが予想され、市の財政負担の増加につながる恐れがある。
-----	-----------------------	---

(4) 評価の総括

所属長所見 1. 妥当性 ● 適切 ○ 見直す余地あり 2. 必要性 ● 適切 ○ 見直す余地あり 3. 公平性 ● 適切 ○ 見直す余地あり 4. 効率性 ● 適切 ○ 見直す余地あり 5. 有効性 ● 適切 ○ 見直す余地あり	総合評価 ・全て適切でA評価 ・適切3～4でB評価 ・適切1～2でC評価 ・全て見直しでD評価 A A 現状どおり事業を進めることが妥当 B 事業内容や事業手法に改善を行う余地あり C 事業縮小または内容や手法に大幅な見直しが必要 D 事業の廃止や休止など、事業のあり方について検討する必要あり
所属長所見 □ 拡大・充実 ■ 現状維持 □ 改善 □ 民間委託 □ 統合 □ 縮小 □ 休止 □ 廃止 □ 完了	改革改善案（総合評価でA評価の場合は記載不要）